

雪と遊ぶスノーハイク 高峰高原

実施日 2015年2月21日(土)~22日(日)
 天候 21日 快晴/22日 曇り
 リーダー 伊藤 久雄
 参加者 涌井良明、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、伊藤久雄、石原勝正 計6名
 費用 JR11,640円(東京駅起算) 車2,800円 宿泊費14,000円・暖房費1,000円 合計29,440円
 タイム 2/21 東京駅(6:52)佐久平駅(8:19:40)アサマ2000スキー場(9:40)雪上車)高峰温泉(10:00~45)水ノ塔山(12:10~12:50)昼食)高峰温泉(13:50)泊
 2/22 高峰温泉(9:00)黒斑山登山口(9:30)2150m付近(11:00)トーマの頭(11:10~11:15)アサマ2000スキー場(13:00~20)高峰温泉(16:00)アサマ2000スキー場BS(16:17)佐久平(17:25~17:35)

2/21 新幹線、バス、と乗りつぎ高峰高原に到着すると辺り一面銀世界で眩しい。グレンデのスキーヤーを横目に雪上車で高峰温泉に向かい旅館で手続きを早々に済ませスノーシューに履き替えて出発をする。



今日は水ノ塔山を目指す。宿の前にある登山道の案内板は8割がた埋まっている。風もなく穏やかな

かな日差しを浴びながらしばらくは雪質のいい緩やかな斜面を登っていく。時折振り返ると宿とスキー場が小さく見える。一名Sさんがスキーをやっている。

穏やかな天気でスキーも楽しいだろう。中ほどを過ぎると傾斜がややきつくなり小さなアップダウンを数回繰り返して夏山とは違う頂上付近で右の方をまいて水ノ塔山に到着する。

頂上からの眺めは圧巻である。「良いもんだろう日出ずる国の日本」のフレーズ

が脳裏に浮かぶ。北は草津方面の山々や手前には四阿山、北北西には妙高高原、



北アルプス、中央アルプス、南アルプス、最近登った美ヶ原高原、蓼科山、八ヶ岳、秩父方面、富士山も見

える。日光方面の男体山や、同じ位の高さの山々が前後に重なり合って良く判らない山々も沢山見られる。浅間山は手前にある黒斑山に遮られて、頭が少し見える程度である。独立峰の様な



ほぼ360度の展望である。

時折冷たい風が吹いていたので少し下



った頭上を木の枝で覆われた不安定な場所で立食で昼食をとる。食事の後もう一度頂上からの素

晴らしい雪山の景色を脳裏に刻んでから下山を開始する。後はビールと温泉が待っている。

下山早々宿から50m程離れた所にある4名限定の露天風呂に着替え用のザルを持参で行く(湯船が小さいので)。湯船以外には何も無い。正面の下界は佐久平や小諸の町であろうか。周りは雪で覆われた山々。正に雲上の雪見露天風呂である。缶ビール持参の人もいる。湯加減も良い至福のひと時である。待っている人のことをつい忘れ長湯をしてしまった。申し訳ない。

夕食は食前酒に朝鮮五味子、先付に大根の香草焼き、芹と白菜のお浸し他、焼物は鹿ステーキの山掛けバルサミソース他、自家製の野沢菜等、盛り沢山の料理。味はやや薄味でさっぱりした味付けで大変美味しかった。

2/22 夜中に強い風が吹いていたが(天

気予報では春一番になりそうだと言っていた)朝起きたとき、まだ南風があったので西側から登れる黒斑山の少し手前のトーミの頭まで行くことにした。

雪上車で登山口まで送ってもらい其処から登り始める。枝には新雪が積り、時



おりウサギの足跡を見ながらシラビソの森の中をゆっくりと登って行く。中ほどを過ぎると直登になる所が何か所か有り息がはずんだが其れを登りきると緩やかな山道になる。暫く登ると急に外輪山に出て視界が開ける。曇り空で視界はあまり良くないが雪に覆われた浅間山のすそ野が見渡せる。トーミの頭も見える。右



方は崖になっておりやや凍った狭い登り坂を慎重に登って行く。トーミの頭はガスがたちこめ寒く視界も悪いの

で早々に下山することにしたが黒斑山が近いということで数名が黒斑山に登ってから下山すると言う事になった。

トーミの頭から慎重に下り元来た中コースを下っていく。途中新雪の中を歩いたり尻セーリングをしながらアサマ2000スキー場まで下山したがI・Tさんが雪上車の屋根に乗りたいたいということで屋根に乗せてもらい途中木の枝に気負っけながら宿まで戻った。是も良い思い出になった。黒斑山組は間一髪間に合わなく、宿まで登り返して帰ってきた。その健脚ぶりには恐れ入る。帰りの時間までまだ十分時間が有るので温泉に入ったり、餌付けされたヤマガラ、コガラ、カワラヒワ、ホシガラスなどの野鳥が引切り無しに次から次に飛んでくるのをクマササ茶を飲みながらのんびり眺めたり昨夜の残り物を御つまみにビールを飲んだりして過ごし楽しかった思い出を胸にバス、新幹線と乗継ぎ帰宅の途に着いた。

(記&写真・伊藤 久雄)

黒斑山頂班

タイム トーミの頭(11:10~11:15)黒斑山(11:30~11:50)アサマ2000登山口(13:03)

メンバー 涌井良明、渋谷賢寿、渋谷京子、石原勝正 4名

さて、トーミの頭からは期待の浅間山の姿は見えなく冷たい風が吹いているのみである。黒斑山方面も右側が切れ落ちた外輪山の稜線が続いているが手前の小ピークが望めるだけであった。

Lは引き返すつもりだが、黒斑山までは距離で300m程を残すだけあり樹林で風もそれ程受けそうもないので、折角の冬場の機会なので希望するメンバー4名で黒斑山頂まで行くことにする。

念のためスノーシューからアイゼンに履き替えて山頂へ向かう。直ぐに外輪山の縁に沿って樹林の中の道に行く、登山者の姿も多いのでトレースはしっかりである。トーミの頭から見えていた小ピークを越してやや急な登りが終わると黒斑山

である。積雪は1m程の山頂標識の倍以上は有りそうだが、山頂標識付近は見えない様に雪が掘られていた。



写真を撮って、軽食と暖かく飲み物で一息ついて山頂を辞して往路を下山する。トーミの頭で再びスノーシューに履き替えて中道を下る、急傾斜では多少歩き難いが順調に下って、13時3分アサマ2000スキー場の冬道登山口に下山した。タッチの差?で送迎の雪上車に会えずにスキー場経由の道を登り13時40分に高峰温泉に無事帰着。

冬山・雪山の雰囲気満喫できた黒斑山だった。

今計画してくれたLと同行メンバーに感謝である。

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・石原 勝正)